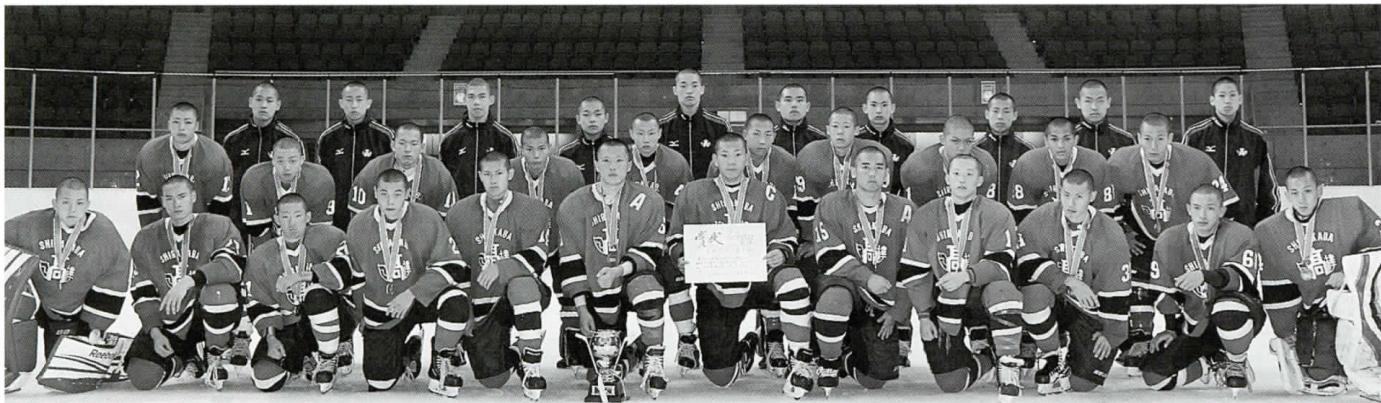


しらかば



白樺学園高等学校
河西郡芽室町北伏古東7線10番1
TEL(0155)62-7411
FAX(0155)62-7412
E-mail info@shirakaba.ac.jp



白樺学園アイスホッケー部は、日々の陸上トレーニングや氷上練習から、常に全力で一生懸命取り組むチームです。しかし、この競技は団体種目なので、メンバーの気持ちが一つになつていなければ勝てません。今大会は、プレーの面でもたくさんの方の課題が見つかりました。

私が一年生の時、ほとんどが主力選手だった三年生は、精神面でも、プレーの面でも私達後輩を引っ張ってくれていました。今年の三年生は九人で、一、二年生の方が人数が多いです。しかし、私は、三年生がまとまっているチームが強いチームだと思っています。

三年生がまとまればチームもまとまる。今年は、そんなチーム作りをしていきたいたいと思っています。

残りの大会は、全て優勝・日本一を目指します。そして、応援して下さった方に感謝し、アイスホッケーを通して勇気や感動を与えるようにチーム一同頑張ります。これからも応援をよろしくお願いします。

私が一年生の時、ほとんどが主力選手だった三年生は、精神面でも、プレーの面でも私達後輩を引っ張ってくれていました。今年の三年生は九人で、一、二年生の方が人数が多いです。しかし、私は、三年生がまとまっているチームが強いチームだと思っています。

三年生がまとまればチームもまとまる。今年は、そんなチーム作りをしていきたいたいと思っています。

私が一年生の時、ほとんどが主力選手だった三年生は、精神面でも、プレーの面でも私達後輩を引っ張ってくれていました。今年の三年生は九人で、一、二年生の方が人数が多いです。しかし、私は、三年生がまとまっているチームが強いチームだと思っています。

私が一年生の時、ほとんどが主力選手だった三年生は、精神面でも、プレーの面でも私達後輩を引っ張ってくれていました。今年の三年生は九人で、一、二年生の方が人数が多いです。しかし、私は、三年生がまとまっているチームが強いチームだと思っています。

私が一年生の時、ほとんどが主力選手だった三年生は、精神面でも、プレーの面でも私達後輩を引っ張ってくれていました。今年の三年生は九人で、一、二年生の方が人数が多いです。しかし、私は、三年生がまとまっているチームが強いチームだと思っています。

全国選抜大会、準優勝！

「心を一つに、次なる目標へ！」

アイスホッケー部主将
三年D組 平野 裕志朗
(苦小牧市立和光中学校出身)

「目標は、感動して頂ける演奏をすること」

吹奏楽部部長
三年B組 木村 つぐみ
(帯広市立帯広第四中学校出身)

全道大会一年連続出場！銀賞受賞！



札幌コンサートホールKitara前

私達は、八月三日に行われた第五八回帯広地区吹奏楽コンクールで、昨年に引き続き二年連続の金賞を受賞し、第五八回北海道吹奏楽コンクール(全道大会)に

出場することができました。大会へ向けて、白樺ホー

ル(本校)で音の響きを確認し、合奏を中心に練習を行いました。

私達は、感動を与える演奏をすることを目標に、そのためには自分たちが演奏を楽しむことを大切にしました。

吹奏楽部部長
三年B組 木村 つぐみ
(帯広市立帯広第四中学校出身)

全道大会当日も、いつも通り笑顔で楽しく演奏することができます。今年は、昨年度よりも一つ上の銀賞を受賞することができました。

三年生にとっては、最後となる全道大会で銀賞を受賞できたことは、本当に幸せな事だと思っています。今回の大会を通して、顧問の先生方をはじめ、支えて下さった方に感謝しています。後輩たちには、来年も全道大会へ出場し、次は金賞を受賞して欲しいと思っています。

三年生は、十月十八日(金)にとかちプラザで行われる定期演奏会をもつて引退となります。一日を無駄にせず、練習に励み、悔いの残らない演奏会にしたいと思います。



二十年連続のインターハイ出場!

陸上競技部主将

三年C組 竹内隼哉

(音更町立緑南中学校出身)

「三度目のインターハイを終えて」

私達陸上競技部は、七月二十八日から大分県で行われた北部九州インターハイに十五名で出場してきました。

今年の陸上部は、ケガで走れない時期が続いた人もいましたが、そんな中でも、

インターハイ出場や予選突破など、一人一人がしっかりと目標を立て、できるこ

とを一つ一つ探し、必死に頑張ってきました。

インターハイでの結果は、残念ながら全種目予選敗退

というところで終わってしまいましたが、四×一〇〇メートルリレーと四×四〇〇メートルリレーで、シーズ

ンベストを出すことができました。

三年生は最後のインターハイでしたが、二回目、三回目の経験、だつたこともあり、緊張しすぎることなく

大会を楽しめたと思います。一



今後の活動としては、新人戦と駅伝大会に向け、三年生はサポートにまわることになります。今までの恩返しという気持ちで、残り短い期間も頑張つて行きたく思います。

これからも陸上競技部は二年生を中心としつつ、応援よろしくお願いします。

本校初の試みである「就職ガイダンス」が七月十一日に行われた。厚生労働省が新規高卒者就職支援事業の一環として主催し、東京にある株式会社ソーシャルデザイン研究所が企画運営しているものだ。働くことへの動機付けから、面接での表現力の強化までを目指したプログラムで、座学ばかりではなく、参加型のグループワークや実践指導を中心に行い、生徒が主体的に学ぶことができるよう構成になっている。今回は東京・札幌から三名の講師が来校し、ガイダンスを開催した。

R、模擬面接までたっぷり六時間かけて、つい引き込まれてしまつた。また生徒本人が主体になる取り組みが多くなったこともあり、生き生きと臨んでいた。最初は挨拶もあまりしつかりできなかつた生徒たちだけ前を向いて、行動にもメリハリをつけた明るいトーンで挨拶して終えることができた。

この成長がうかがえた。まだ就活モードにはなつていない生徒たちにはいい刺激になつたことと思う。生徒たちの感想も「大変役に立つた」という肯定的なものが多かつた。

このガイダンスは人気が高く、なかなか開催することができないが、今後も機会があれば開催したいと思っている。



自分に、「がんばれ。」

上村 洋介 さん
昭和54年生まれの34歳。98年白樺学園高校体育コース卒業。担任は湊谷先生、野球部の顧問は平井先生（現校長）。現在JA鹿追町で勤務をしながら、My's（マイズ）のメインボーカルを務めている。8月11日に発売された新曲「がんばれ。」は、AIR DOでも採用され、白樺祭のライブでは最高の盛り上がりを見せた。

Q 上村さんの卒業後白樺学園が二度甲子園に行きましたが、そのことについてどう思いました？

A 野球部の練習試合で、自分の地元の高校と対戦したんですが、そのとき、平井先生が粋な計らいをしてくれて、自分が登板して、マイズの相手と対戦したことですね。二人とも高校球児だったんですよ。

Q 高校時代の思い出を一つ教えて下さい。

A 高校三年間では、悔いが残るものだと思つけれど、それでも悔いの残らないよう過ごしてもらいたい。毎日自分にプラス1%になるよう、努力を積み重ねていつてほしいです。そして辛いときは、心が折れそうなときは、自分でお手本に「がんばれ。」と言つてほしいと思います。がんばれと人に言うんじゃなくて、自分に言つてほしいですね。

就活モード突入！ 就職ガイダンスを終えて

進路指導部長 教諭 齊藤 努

Q 白樺学園にきて良かったと思うことは？

A 社会人になつて、「第一印象が良い」とよく言われます。これは、三年間で身についた、挨拶や礼儀が生きていますし、とても役に立っています。

Q 白樺学園に入ろうと思つたのはなぜですか？

A 野球です。甲子園にいきたくて、決心して鹿追から白樺学園にきました。

Q 今の大好きな音楽をできるだけ長く続けることです。

A 最高にうれしかつたです！一方で、私は後輩達に何もしてあげられないでの、今回の「がんばれ。」は白樺学園高校のためにつくつたような曲なので、励みにしてもらえるとうれしいです。

進路指導部 教諭 春木 雄一郎



島がぶつかり日高山脈が形成されるころから現在の北海道としての歴史が始まりました。バスによる実習は一五〇万年前の海の時代（十勝平野は大きな湾でした）のことを学ぶ貝化石発掘（幕別町豊岡）から始まります。その後、一〇〇万年前の火碎流堆積物の黒ウンモ、石英、軽石の採取（音更町旭）をします。その噴出は十勝三股付近の火山活動によるもので十勝の広範囲に甚大な影響を与えました。やがて八〇万年前には十勝の湾が閉じて湿原の時代を迎えています。バスは帶広市下川西に向かいます。そこでは古砂丘の見学と火山灰（砂）の採取を行います。四万年前、十勝は氷河期を迎えていました。その頃、支笏湖は巨大な火山で大規模な噴火をし、一万八千年前には恵庭岳が噴火をしました。支笏火山の後

は一萬年以上、恵庭岳噴火の後には数千年もの間、十勝は砂漠の時代を迎えています。そして、最後に、帶広市畜産大学構内の十勝坊主を見学して半日をかけての見学と実習は終ります。

どの生徒も、学校を離れ、楽しく活き活きと、地道にコツコツと実習に励みます。十勝だけに限っても地震、海、湖と湿原、火山、氷河期、砂漠と、自然がダイナミックに変遷することを、この実習を通して体感することができるこ

とであります。実習後、卒業後に至つても、生徒個々が、自然の驚異を考え、郷土の自然を見つめ直すきっかけとなることを願っています。

理科科 教諭 芦澤 満

Q 本校卒業後から現在までの競技の様子を教えて下さい。
A 成績は、インカレ五〇〇m優勝、全日本ジユニアップリント部門総合優勝、世界ジユニア五〇〇m優勝という結果でした。

しかし、昨年は調子の波が激しく、世界のレベルの高さを痛感させられました。A選手としては、速いだけでなく、自分が白樺の先輩方を目指したように、自分も後輩たちに目指してもらえるよう、実力と人間性をもち、皆さんに応援されるような選手になれるよう頑張ります。

Q 今後の目標を教えて下さい。

A 大学卒業後は実業団でスケートを続けられたら良いなど思っています。

Q 後輩たちへメッセージを。

A 高校生のうちは後悔のないよう自己のやりたいこと

手でやってください。でも、苦

なことに向かっていくことも大切だと思います。

Q 私はスケートのセンスもな

いし、中学までは、たいした結果を残すことができませんでした。

A でも練習を休むことはしませんでした。その結果、

最高とは言えませんが、それ

なりに結果はついてきました。

だから、皆さんも、苦手なこ

と嫌なことに向かっていくこ

とができれば、必ず何かを成

し遂げることができると思い

ます。

Q お互い、向上心を持って頑張りましょう。

Q お互い、向上心を持って頑

張りましょう。

Q お互い、向上心を持って頑

</div

